

## 庄内海岸林再生プロジェクト会議（設立会議）【要旨】

- 開催日 令和8年3月27日（金）午前10時から11時30分
- 場 所 庄内総合支庁 講堂
- 主 催 山形県
- 出席者 山形県知事、鶴岡市長、酒田市長、遊佐町長  
林野庁東北森林管理局庄内森林管理署長、国土交通省酒田河川国道事務所副所長  
森林ボランティア団体、農業協同組合、林業関係団体、木質バイオマス製造企業、商工・金融団体、研究機関 等

### 1 挨拶（知事）

庄内海岸林の歴史的・公益的価値について触れ、近年の高温等によりマツ材線虫病（松くい虫）被害が激甚化、再生と持続的保全を目的に本会議を設立する意義を述べ、関係者の連携・協働を呼び掛けた。

### 2 設立趣旨・実施体制

- 会議の目的 荒廃した庄内海岸林を再生し、地域の安全・暮らし・産業を守るため、多様な主体の協働による持続的な森づくりを実践
- 協議事項 二次被害対策、造林による再生、苗木供給体制、被害材活用、県民活動推進、県内外からの参画促進 等
- 組織案 会長 山形県知事  
専門部会
  - （1）森林再生部会  
部会内チーム ①二次被害対策推進 ②再生推進技術検討  
③苗木等供給体制 ④被害材活用推進
  - （2）出羽庄内公益の森づくり部会  
部会内チーム ①県民活動支援 ②広報
- 部会長（推薦） 森林再生部会長 山形大学名誉教授 林田光祐 氏  
公益の森づくり部会長 東北公益文科大学教授 呉尚浩 氏  
(会議資料の「庄内海岸林再生プロジェクト会議」の実施体制を参照)

### 3 被害状況およびプロジェクト概要

- 被害状況 松くい虫被害は令和4年度までは概ね年2万m<sup>3</sup>台で推移していたが、令和5～7年度に急増。高温少雨による被害急増に加え、被害木の切り残しの発生が被害拡大に拍車をかけた。マツノマダラカミキリの飛翔距離（約2km）等、被害拡大の生態的要因等を説明。
- 再生プロジェクトの基本方針（当面10年を想定）

- ①二次被害対策の最優先化（危険木把握、緊急伐採、インフラ事業者との連携）
- ②ゾーニングに基づく再造林（抵抗性クロマツ・広葉樹の導入と天然更新の併用）
- ③苗木供給体制の構築
- ④被害材の利活用（チップ・ペレット等）
- ⑤県民参加・資金調達（基金・寄付等）による持続的体制の整備

#### 4 出席者からの主な発言（要旨）

##### ○森林再生部会長

庄内海岸林は模範的な体制で海岸林を守ってきたが、今回の深刻な松枯れ状況になった。これまでの体制を活かしながら、これまでと違う気候変動や人口減少に対応した技術や大胆な案で進めていくことも必要。

##### ○公益の森づくり部会長

過去の出羽庄内公益の森づくり活動の蓄積を活かし、多様な主体の協働と広葉樹等を含む多樹種化による長期的な森づくりを進めていきたい。専門家だけでなく、住民の方々も取り組めるような新たな技術というものを開発していきたい。

##### ○市町長

二次被害対策（危険木伐倒）を最優先しており、自治体負担が急増しているため、県の助成を拡充してもらいたい。被害材の木質ペレット化、チップ化によるエネルギー利用にさらに力を入れて取り組んでいく。

財政支援、都市公園等の公共空間を含む対策、伐採後の処理・回収の仕組みを県主導で整備してもらいたい。風の被害、砂の被害が出ないように伐りながら植えていくことをどのように具体的に進めていくのか教えてほしい。

単独での対応は限界であり、県の支援を期待している。先人の偉業を称えつつ、知恵と工夫で何ができるか考えていきたい。

##### ○森林管理署

国有林管理の立場から本プロジェクトの趣旨に基づいて、地域の意見を踏まえつつ、意見を出しながら進めていきたい。

##### ○森林ボランティア

マツ材線虫病（松くい虫）は、防除が極めて大変な伝染病であるという共通認識及び危機意識が欠如していた。

高速道路法面、空港・港湾用地、都市公園、農地、学校敷地、神社仏閣、ゴルフ場、個人宅など、ありとあらゆるところに被害が広がっており、農林水産部だけでの問題でないことから、本プロジェクト会議は効果的である。

1種類の樹種で構成される林は病虫害や気象被害に弱いことから、クロマツだけに頼らず、天然の再生力、広葉樹を活かした森づくりを進めていく必要がある。

小学生の協力のもと、被害跡地への被害跡地への抵抗性クロマツや広葉樹の植栽を行う予定。

広報による周知やボランティアの活性化、参加促進が必要。

遊佐町にはマツがまだ残っている、薬剤の空中散布を継続して欲しい。再生も大事だが、樹幹注入により、現状の木を守ることも大切。

#### ○農協

倒木による人身・施設被害の事例を報告。防除薬剤散布時期と作物（例：メロン）との調整が必要。

マツを伐った場所ですべてつもない風が吹き始めている。伐らなければならないが、再生（植栽）もすぐにしなければならない。残存樹種から活用可能な樹種を選定して、いろいろな樹種を植えないと砂丘地は守れないと思う。

#### ○森林組合

伐採・処理作業に人的・費用負担が集中しており、行政の支援が不可欠。

#### ○商工会議所

経済団体として事業に参画して経済的な支援ができるのではないかと考えている。

#### ○研究機関

庄内に適した庄内方式の再生手法をみいだしていけたらと考えている。また、県民一丸となった海岸林再生の実践の場にも関与していきたい。

### 5 質疑応答・事務局回答

- 質問 風害、砂の被害が出ないように伐りながら植えていく方法を教えてほしい。
- 事務局 被害木を一度に伐採してしまうと防風・砂防の効果がなくなってしまうため、枯れたマツを残存させることで、ある程度の防風・砂防効果が発揮できるのではないかと考えている。具体的な方法について、専門部会で検討する。

### 6 決定事項

- 設置要綱（案）と設置要領（案）の承認
- 「庄内海岸林再生プロジェクト会議」の設立
- 専門部会の各部会長の承認。

### 7 今後の予定

- 会議での意見等を取りまとめ、専門部会で検討・協議のうえ次回全体会議で報告する。